

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市南吉成児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 15,428 人 (前年度比 72.6 %) 令和元年度 21,265人 平成30年度 22,347人 平成29年度 21,437人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 34,441千円 (35,496千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
	()は前年度決算額
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、昨年度より、コロナ禍のために縮小しているが乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>放課後児童健全育成事業では、目標に「遊びと生活の両面に配慮した事業を実施し、働く保護者の子育て不安に対し必要な支援を行う」を掲げています。遊びや生活の約束を確認しながら、4月に「児童クラブはじまりの会」3月「保護者会」「お別れ会」を実施し、みんなが楽しく過ごすことができました。コロナ禍で、日頃の子どもの様子を伝えたり、夏休みに向けての留意点を確認したりする保護者会が持てませんでした。しかし、利用者アンケートでは児童クラブ利用者、乳幼児保護者全員が楽しく利用しているとの回答をいただきました。</p> <p>子育て家庭支援事業では、目標に「親子が楽しく触れあうことができる環境をつくり、発達段階に見合った年齢別のプログラムを提供することで親子関係を深める機会とする」と掲げましたが、7月まではコロナ禍で自由来館もなく、すべての行事を行うことができませんでしたが、7月に入ってから月2回程度、定例行事を人数制限して実施することができました。10組に制限して9月に実施した「キッズフェス～ムーミン谷ようこそ～」では、「幼児クラブ・あそびましょ1・2・3、0ちゃん」などの行事パンフレットを作成して事前に広報しました。その結果、活動への期待感をもった方の申込みがあり、すぐに定員に達してしまう盛況ぶりでした。</p> <p>運動遊び推進事業では、目標に「運動が苦手な児童や運動が嫌いな児童が体を動かすことの楽しさに気づき、運動を継続するきっかけづくりを行う」を掲げました。秋休みに「大学生と遊ぼう逃走中」と題して、いろいろな鬼ごっこ遊びや「グランドゴルフであそぼう」の活動を南吉成地区社会福祉協議会と共催で実施する予定でしたが中止となり、世代間交流事業や地域交流事業もコロナ禍で中止となりました。次年度は、南吉成・吉成子育て支援ネットワークを積極的に活用しながら掲げた目標を達成できるように取り組みます。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、7月より幼児クラブや年齢ごとの活動をスタートさせ季節の遊びや工作、母親のリフレッシュ目的のアロマ作りやママのボディーリフレッシュなど多彩な行事を開催し、他団体との連携ができにくい中で職員が自ら資格を取って行事を企画するなど意欲と工夫が見られた。9月に行った「キッズフェス」は、子育て支援クラブの共催で様々な遊びのコーナーを設定し、多くの親子が参加し楽しむ場となった。さらに広報活動では、年間の行事パンフレットを作成して行事への期待や参加を促すなど積極的に取り組み、乳幼児親子が児童館を身近に感じて利用しやすい環境作りに努めている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、感染予防のために小グループでの遊びや学年ごとに部屋を分けるなど工夫し、職員が季節ごとの工作やプラバン作りなど準備し遊びの充実を図っている。また、「ふれあいタイム」では、高学年児童がリードして話し合いを持ちみんなで考えた遊びを取り組み、ソフトバレーや布ドッチなどの集団遊びを通して異年齢の交流する機会を作っており、遊びを通じた社会性の向上や運動発達機能の成長に努めている。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課